

■新品種「種なしブンタン」の育成に向けて

本県の特産果樹である土佐文旦は、特徴ある香りと上品な甘さが好まれ年々消費は増えています。しかし、種子が多く熟期が遅いことなど改善点も指摘されていました。そこで果樹試験場では、平成6年から年内収穫が可能で種子が少ないブンタン新品種の育成に取り組んできました。母親を土佐文旦、水晶文旦等のブンタン類とし、父親にブンタン類やその他カンキツ類を交配して得られた交雑実生を育成し、温州ミカンへ高接ぎ（約1,000個体）して、結実促進を図ったところ154個体が結実しました。

これらの果実を調査したところ3系統で、種子のない系統が確認できました（表1）。これらの系統が本県の有望品種となりうるかどうか、特性調査を継続しています。また、これらの系統は雌性不稔性を有すると考えられますが、どのような理由でこのような特性が発現するのかについても興味をもたれます。



表 無種子果実品質

系統名	採日 年月日	果実 重 (g)	果形 指数	ジカ 数	種子 数	果肉 歩合 (%)	果汁 歩合 (%)	糖度 (g/100ml)	有機酸 含量
土佐文旦小種子由来	2001/12/25	4628	112	160	0	780	479	145	1.22
Bu1-7×ザンイロ-N48	2001/12/25	581.1	84	100	0	483	789	128	1.38
Bu1-7×ザンイロ-N21	2001/12/25	2657	112	110	0	639	514	157	1.72
土佐文旦	2001/12/12	5885	120	—	—	622	600	114	1.23

[果樹試験場 常緑果樹科 小原敬弘]